

令和元年度 第3回焼津市自治基本条例推進委員会 会議録

- 日 時 令和2年2月17日(月) 13:30～15:00
- 場 所 焼津市役所会議室棟203号室
- 出席者 自治基本条例推進委員 8人
松下委員長、関副委員長、古川委員、寺本委員、中野委員、鈴木委員、
向坂委員、近藤委員
事務局 3人
堀内課長、緒方係長、鈴木主査
- 欠席者 大石委員、兒玉委員
- 次 第 1 開 会
2 協議事項
施策につながるまちづくり市民集会の意見の検討
3 その他
あまり知られていない「焼津のいいところ」について
自治基本条例の普及活動について
連絡事項

(堀内課長)

本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

只今から、「令和元年度第3回焼津市自治基本条例推進委員会」を開催します。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、2の協議事項ですが、焼津市自治基本条例推進委員会規則第6条第1項に基づき、推進委員会委員長の松下様、進行をお願いいたします。

(松下委員長)

この前のまちづくり市民集会で意見がいろいろ出ました。意見については、資料の1ということでまとめてくれていますが、これについて意見交換をして、どう次につなげていくかということを考えていければと思います。いつものとおり自由に意見を言っていただければと思います。それでは、資料1について事務局より説明をお願いします。

～事務局から説明～

(松下委員長)

まず、この推進委員会の役割ですけれども、実行委員のメンバーで今回6回目となる市民集会を開催しました。今回もたくさんの方が集まり、地域のニーズが集まる仕組みになっていると思います。私たちの役割は、実行委員会の人たちの仕事がしやすいようにする、それを後押しすることなんです。私たちが市民集会をするのではなくて、さっ

きもいろいろな課題の説明がありましたが、もっとよりよいものにするために何かできることがあるんじゃないかと考える、私たちがすべきことはそういうことだと思うんです。そういう切り口で、このまちづくり市民集会の実績や反省を踏まえて意見を出す、それがまず一つです。それからもう一つは、先ほど出ていましたけど、どうしてもワンランクアップという話になるわけです。2つあって、市民集会には来て話すことが楽しみだよという人もいるわけです。それも大事なんです。とにかくみんな楽しくやる、それも「つながる」だから大事なわけです。リピーターの人もいます。また、ワンランクアップとは何かということを考えて、それを市民協働課がやるのを後押しするような役割もあります。そういう役割を踏まえた上で、皆さんが感じたことや様々なご意見により方向性を示していけたらいいなと思っております。それでは、自由に感じたことやご意見を言っていただければと思います。

(近藤委員)

今年で条例ができてから6年目ですよ。個人的には市民集会というのは、一つのイベントとして良いと思います。焼津公民館で地域おこし協力隊の女性に来ていただいてお話を聞いたのですが、焼津市の目指すまちの姿について、各地区で地域おこしをやっている人をつなげて話し合いをやってみたらどうかなと思います。条例の普及にもなるし、場をつくってやったらいいと思います。

(鈴木委員)

子育てが終わって、みんな嫁に出したり結婚したりすると、何にもなくなって家でぼーっとしている人が多いように感じます。私くらいの世代の人が寄っておしゃべりをするだけでもいいので、公民館とかそういうところではなく、庭先へ御座でも敷いて、テーブルでも出してお菓子を食べながらおしゃべりする、そんな場所があちこちできればいいと思います。

(松下委員長)

それも「つながり」ですね。

(中野委員)

今回想いのある人が参加したってこともあるんでしょうけど、こんなに皆さんつながりたいんだなって思いました。今ってわりと私は私みたいな人が多いと思ったんですけど、実際ふたを開けてみるといろんなところとつながりたいと思っている人がいっぱいいるんだなということに改めてビックリしました。もちろん自分もつながりたいと思うので、本当は皆さんもそうなんだなと思いました。市民集会は大きな一日ですが、今、お話しがあったように、ちょっとしたところで、いつでもやっていて、誰が行ってもよくて、話せるような場所がもっとたくさんあるといいと思いました。何時からだから必ず行かなければいけないというのではなくてパッと行って帰ってこれるところがある

といいなと思いました。

(鈴木委員)

刺激がないですね。起きてご飯の支度をして、洗濯して、掃除して、ぼーっとしているのでは刺激がなくなってしまう。少しの時間でもお茶を飲むようなところがあるといいです。一箇所じゃなくてたくさんあるといいと思います。

(松下委員長)

いろいろな形があるといいですね。

(向坂委員)

私たちはやったことがないんですけど、少し上の世代で、昔「浜行き」という言葉をよく耳にしました。ご近所さんが集まって和田浜にいこうよとか、そういうつながりが昔は焼津にたくさんあったと思います。それがだんだん私たちの世代になると、希薄になってきて今の状態になっているので、そういう昭和の頃の良いことを体験してきた方たちが、まだご存命のうちに伝えたり、違う形でやってみたりしたらいいと思います。例えば静岡だったら「縁側カフェ」とかを奥の方でやっているの、焼津でもお嫁に行った人たちが子どもや孫を連れて帰ってきて、ちょっと寄れる場所とかがあればいいなと思いました。

(関副委員長)

空家を使ってみるのもいいですね。修繕が必要な場合もあるので、そこを新元気世代が活躍する場所にしてもいいと思います。

(松下委員長)

そういうことをやっている地区もあります。

(向坂委員)

浜通りの水産翁の生家を利用するという話がありますが、そういうところを活用すれば、子どもたちに水産翁という人がいたんだよと伝えることもできると思います。

(松下委員長)

全て空家ではなくてもいいですが、集まりやすい場所があちこちにあるのはいいことだと思います。一つで全部をカバーするというのではなくて、海の見える場所が良いとか好みは人それぞれだから、いろんな人にあった場所があればいいですね。

(寺本委員)

私たちのところは、毎年5月3日「浜行き」というものをやっています。各自いろいろ

ろ持ち寄って、組などで話をする。以前は、浜当目の浜へ行ってやっていたが、最近では瀬戸川の河川敷で、雨が降ったら公会堂でやっています。そういうことが何十年も続いています。市民集会のことでは、今回出た高校生などを中心として、高校生対象のミニワールドカフェを開催して、高校生がどんな考えかを聞くような場を持てたらいいと思います。どのように発展するかはわかりませんが。

(松下委員長)

高校生同士でやるのもいいですが、世代間交流のほうがいいと思います。去年だったか、発表した高校生が知らない大人とこんなこと話したことなかったと言っていたが、新鮮だったからそういう感想が出たんだと思います。我々大人も知らない高校生と話すことはまずないですし、そういうことがお互いを刺激していくと思います。高校生同士ということもあるとは思いますが、焼津は今回来てもらったような高校生などの人々を逃がさず取り込んでいくことが大事だと思います。そういう人たちがこういうことやりたいということが出来る機会を作っていけたらいいと思います。こちらがこういうものやると押しつけるのではなくて、他の市町では、音楽イベントを高校生が中心になってやりたいとなり、それを大人が手伝うということをやっているところもあります。

焼津のように高校生がこんなに来るまちはないんです。どこでも一人とか二人とか、生徒会に頼んで来てもらうようなことをやっています。高校を個別に訪ねるのも大切ですが、焼津のまちづくりに関して高校が集まれるような場があるといいと思います。そうすれば情報を共有できるし、交流もできると思います。その辺りはまさにつなぐをつくることで、みんなができることはそういうことだと思うんです。こんな仕組みは他にはないですし、こういった高校との仕組みをやってみたらいいんじゃないでしょうか。

(近藤委員)

例えば、2、3年くらい前に行政が主体となり、都市マスタープランについて各地区でワークショップをやったときに、高校生が参加してくれました。お休みの日曜日にやったことで参加につながったと思います。お休みの日にやってみるのも一つあると思います。

(松下委員長)

特別に何かをやるということもありますが、いつでもできる仕組みのようなものを徐々に作っていった方がいいと思います。市民協働課で全部はできないから、目玉のものをつくりたいです。高校生などがこれだけ来てくれるというのは、地元から声掛かったら行かなきゃという土地柄なんだと思うんです。これって皆さんはすごいことだと思っていないかもしれませんが、私の経験から行くとなかなかこれだけは集まらないわけです。それは、すごいことだから、これは資源だと思うんです。もう一つ大事なものは、あまり押しつけて、ただ人数集めるということをやっても面白くないですから、過

度の負担にならないような自分たちの意見でできるような仕組み、イベントなどだと思います。そんなに難しくないと思います。

(関副委員長)

まちづくりをしたいと県外の大学に行く高校生が参加してくれていましたが、やりたいと思っている子どもたちはいると思います。

(松下委員長)

遠くに行っても戻ってきってくれるというような、人のネットワークのようなものがあるといいですね。土曜日に相模女子大で若者に集まってもらうフォーラムを行いました。その中で、新城市の若者議会に発表をしてもらったんですけど、発表者は高崎の大学に行っていて、市外委員として活動しています。だから、そういう人も仲間にして、焼津のためにやってもらうというネットワークがあればいいと思います。もっと言えば「焼津市若者委員」をつくってしまって、事例を出してしまえばいい。高校生でもいいから仲間を見つけて増やしていったら早いんじゃないでしょうか。結論は出しませんが、そういうこともあると思います。

(古川委員)

私たちの事業で、福祉関係に興味のある高校生が、学校の垣根を越えて、障がい者と3泊くらいでキャンプを行うというものがあります。そういうところに来るのは障がい者と接したことがない、ボランティアをしたことがないという子どもたちですが、3日間通じて障がい者とのふれあいの中で、だんだん興味を持ってくるんですね。終わった後にどうしようと話が出て、焼津市、藤枝市、島田市関係なく高校生のボランティア部をつくりました。それが30年以上経った今でも活動しています。高校生でもある程度テーマがあって、関心がある子が集まってくれば、そこでもう自発的にどうやってこれから自分たちの中に取り入れてやっていこうかという気持ちになることが十分あると思います。そういうイベントなりを実施、やるからには、高校生が自分たちも計画から参加して一緒にやっていけるくらいの位置からやっていけば、自分たちの活動として取り組むようになるので、自然と継続するようになると思います。

(鈴木委員)

最初にやった高校生は卒業してその後はどうなったんですか。

(古川委員)

新しい人が来ていますし、OB会のようなものもやっています。この事業でもまちづくりに関心がある人が集まっているので、今度こんなことをやってみないかとまだ熱いうちに投げかければ、興味持って入ってくる可能性はあると思います。その次の活動につなげていくことを考えた方がいいと思います。

(松下委員長)

こういう人たちが一年に一回パッと集まって、パッと終わりというのはもったいないですね。顔をつなぐ場があれば、簡単に言えばLINEがつながってあれば今度なんかやろうよと呼べるように、そういうつながる仕組みがやることじゃないかなあと思います。そうすれば、例えば今度何とか委員会というのをつくるとして、若い人に入ってもらいたいというときにそういうところでこういう委員会やってみないとか聞いてみて、興味がある大学生がやってみようかなとなれば焼津市としても助かると思うんです。福祉がテーマで何かやるというときに投げかけてみるとか、選択肢をいっぱい出してあげたらこのまちが好きになるし、関われると思うんですよね。

(古川委員)

他校との交流を楽しみにしている学生もいますよね。

(近藤委員)

今回、焼津市独自の新元気世代という表現ですが、これから高齢者が焼津市も相当増えていきます。焼津市のホームページで新元気世代のアンケート結果が出ていましたが、これから現状と課題を見据えてやっていったらいいと思いました。

(松下委員長)

若い人との交流は元気の素にもなりますし、教えたり、教えられたりしてつながっていけばいいと思います。新元気世代の事業は実施していくとしても、この委員会が考えたアイデアなどでサポートできると思うんですよ。今日はこれという結論は出しませんが、いくつか出てくるアイデアの中で、優先的にやってみようというのは、市民協働課が無理なくできることでなければだめなわけです。新しいことで大変なことはできませんから、無理なくできることで息の長いこと、来年成果を出す必要がありますから、そういったことを踏まえて、これならできるというものを次回までに考えてもらいたいと思います。できないものをやれとは言いませんから、嫌々やるのではなくて、これならやっていて面白いということを今日の話聞きながら、一個でいいから提案を踏まえて出してもらいたいです。それを推進委員会が後押しして進めていくと。

この前の相模女子大のフォーラムでもそうだったんですが、若い人はサプライズとか面白いことをどんどんやってしまいます。そういう自由さとかすごいと思います。

(鈴木委員)

うちは、近所の子どものたちの通学路沿いであって、よく子どもが通るんですけど、世代が違う中に自分だけ入るとこんなことを考えているんだと面白いことがあります。

(松下委員長)

刺激を受ける、それが新元気世代を後押しする一つだと思います。

(関副委員長)

この前せっかく来てくれた高校生に声をかけて、実行委員みたいなことをしてもらうのもいいですね。

(松下委員長)

高校生や学生なんかにもまちづくり市民集会の実行委員会をやらせれば、実行委員会も雰囲気も変わってくると思います。

(関副委員長)

それからもう一つは、今までどおりではなく変化をというところで、そろそろマンネリ化を解消しなければと考えているのですが、中学校、公民館の単位くらいの市民集会を毎年どこかの地区でその住民と私たち推進委員とで作り上げていくというのをこの条例の推進とまちづくりへの参加、地域をつなぐ、核になる人もできてくるということになるかなと思います。大規模にはならないけれどそういうのもいいかなと思います。

(松下委員長)

私から提案なのですが、市民集会ではたくさんの意見が出ましたが、これを市の中で共有する仕組みが無いんじゃないかということをお伝えたいです。普通なら、相談窓口で市民の人が来て、今度こういうことをやらせたいんだけどと言われたら、それをまとめて書いて、担当課にもって行って、その担当課でそれはこうしますと回答すると、それと同じことだと思うんです。市民集会でこうしたらいいんじゃないかという意見が出ましたと、それを市長に説明するのはいいと思うんですけど、それは大枠の話で担当課までは行きませんから、しっかり担当課に意見を共有するような仕組みを作る。そうすれば、担当課の方でこの問題に対して現実はこちらで、うちはこちらのことをやっていて、こうしていきますというようになります。いきなりは厳しいと思うから、とにかく、こういう意見が出たことを確認し、共有するという仕組みがあれば、出た意見が出っぱなしということにはならないわけです。それがある程度進んできたら、次は出た意見をどうしましたという話になりますけど、いきなりではハードルが高いから、共有が終わった次の段階でいいと思いますけど、少なくとも担当課などがこんな意見が出たんだ、それはもうやっているよねとか、そうかこうしてみようとか思う仕組みが必要なんじゃないかと思います。これについてはどうですか。

(鈴木主査)

庁内で職員が見ることができるツールはあります。

(松下委員長)

庁内 LAN みたいなもので共有するわけですね。今はやっているんですか。

(鈴木主査)

今はやっておりません。

(松下委員長)

推進委員会の総意として、ある程度絞った情報を流して庁内で共有するというところからスタートしてみてください。そうすれば、今度の集会のときなどにみんなの意見はどうなったんですかということに対して、実行委員会でもんだものを市の中で共有しましたと言えるじゃないですか。そうしたらワンランクアップだと思うんです。そんなに難しくはないはずだからお願いしたいです。

(寺本委員)

今回参加した人たちには、こういった資料はいかないんですか。

(鈴木主査)

届かないです。ホームページで公表するような形です。

(寺本委員)

ホームページを見る人ばかりじゃないから、例えば、こういった資料を来た人に送ることができたら2回目いこうと思う人もいるかもしれない。

(松下委員長)

手紙でやったら手間とお金がかかりますから、難しいですけど、本人が申し込むときに市民集会の結果を送りますよというところに丸をした人に送ると、受付のときに連絡先としてメールアドレスを教えてもらって、送っていいですかということに本人が同意していれば全然問題ないと思います。もっと言えば、アンケートをとるときに、これを送りますけどどうですかという欄を設けてアドレスを書いてもらう、自分で書いてもらえたら本人同意ですから、さらにもっと言えば、次の集会のときに通知を出していいですかということも書いてもらう、実際に出てみて面白かったら次も連絡ちょうだいとなるじゃないですか。そういう風に変えたら、多少メールを送る手間はありますが、2回目的人が増えていきますし、参加した人がその後どうなったかもわかります。例えば皆さんの意見を市長に知らせました、そして庁内で共有しましたということが発信できる、そうすれば私たちが言ったことが市長に伝わったんだ、各課に伝わったんだとなります。大した手間ではないのに効果は抜群ではないですか。それだけだってワンランクアップです。私の知る限りそんなことをやっているところはないです。言いつばなしになってしまっていたり、その後どうなっているのかなとなっていたりで把握ができていません。ホームページは見たい人しかみないですから。

(向坂委員)

広報やいつはどうか。

(鈴木委員)

載るよって言われたらそういうつもりで見るともかもしれないですね。

(松下委員長)

参加した人に広報載るよって知らせてあげたら、写真とかがあれば本人はわかるじゃないですか。そうしたら急に親しみが湧きますよね。それはアンケートで連絡先を聞いておくことに意味があります。

(関副委員長)

今まで市長に報告したことが広報やいつに掲載されていません。ホームページにはあってもみる人ばかりではないです。庁内の共有についても、職員がこんなこと言われているんだということを知るいいきっかけになると思う。

(松下委員長)

まちづくり市民集会自体を知らない職員もいると思います。大して費用をかけずに、大して手間をかけずに近しくなれる。当事者感が出てくる。そんなことから始めていけばいいんじゃないでしょうか。職員がこんな意見が出ているということを知ることも大事なことです。そういう意味でまずこれくらいのところから始めてみる。これはそんなに難しくなくできると思いますから、あとは先ほどいくつか出た案の中で中長期的に見て2、3年かけて少しずつ進めていく。一番いいのは若い人との世代間交流でしょうか。若い人の集まりみたいのをうまくつくっていくことをしていっていいですね。高校生と大学生。大人が元気になります。

(向坂委員)

公民館祭りのお手伝いなど中学生ボランティア募集というのがよくありますが、中学生のうちから声をかけたら、高校生になってスッと入ってこれるんじゃないでしょうか。中学生でも頼めばドリンクサービスとかやってくれて、楽しかったと言っている子たちもいます。中学生からでもよかったら、ワールドカフェお手伝いとかで募集したら各中学校から行きたい子が来てくれるんじゃないでしょうか。そうすれば、高校生ともつながって、この高校いってみようとかつながっていくんじゃないですかね。中学、高校だとワールドカフェとかまちづくりとか意味がわからない部分もあるからわかりやすい説明をすれば来てくれるんじゃないでしょうか。

(松下委員長)

学生は、お菓子なんかでも魅力があるみたいで来てくれたりするんですね。

それでは、いい意見がたくさん出ましたが、すぐできることと、2、3年かけて少しずつ前へ進めていくことを整理してもらって、次回また報告してもらいたいと思います。イメージとしては、無理しすぎることはないです。無理というのは役所の内部にもいい方向には働きません。でも少しずつ前へ進めていかなければなりませんので、そういうつもりでやってもらいたいと思います。以上で協議事項は終わりにしたいと思います。次にその他、事務局お願いします。

(鈴木主査)

あまり知られていない焼津のいいところについて、委員の皆さまの中でご意見がございましたらお願いします。

(鈴木委員)

駅前の道なんて、もったいないなあと思います。最近若い子なんかがお店を出したりしてきていますが、もっとできてくればいいなと思います。

(関副委員長)

口は悪くても優しくて親しみやすいところ。

(松下委員長)

まちによって違いがありますよね。あちこち行っていますが、例えば愛知の三河と尾張では全く違います。私は初めて焼津に来たときは川沿いの桜を見に来ました。焼津は桜だなと思っていました。

焼津の半次って知っていますか。昔テレビでやっていました。

(鈴木主査)

次に普及活動についてご意見があれば伺いたいと思います。

(松下委員長)

若い人と世代間交流とかをやっていくことが普及になります。条例を知っていますかというのも大事ですけど、こういうことを実践していますよとか、条例が契機になってこういうことを始めましたとか、情報をみんなで共有しますよなどということが普及なんでしょうね。

(関副委員長)

会合のときなどに三つ折りのリーフレットを持って行って、この条例はそんなに難しいことではなくて、第一歩はこんな簡単なことなんだよと説明するようにしています。

(松下委員長)

戸田市が推進委員会で自治基本条例のエコバックを作っていました。女性議員がデザインしたのですが、便利でしっかりしているから重宝しているようです。パンフレットもいいし、エコバックなど視野に入れてもいいですね。

(鈴木主査)

ありがとうございます。今年度の推進委員会はこれで最後となります。来年度の第1回目の推進委員会は6月前後を予定しております。また通知をさせていただきます。

(松下委員長)

さっき言ったようなことをうまく整理してもらって、次回はもう少し具体的に進めましたでもいいし、こうして進めていますでもいいので報告をお願いします。

(堀内課長)

全てのプログラムが終了しましたので、本日は大変お忙しい中、当委員会にご出席いただき、誠にありがとうございました。これをもちまして第3回の自治基本条例推進委員会を終了いたします。